

教育民生常任委員会会議録（平成23年2月7日開催）

- 1 日 時：平成23年2月7日（月）10:00～11:56
- 2 場 所：役場4階 第2委員会室
- 3 出席者：委員長 高橋 寿
副委員長 高橋盛佳
委 員 相原孝彦 山谷 仁 西村 繁 山本 博 川原 清
事務局 主任主査 勝田裕征
欠席者：なし
- 4 説明員：教育委員会 教育部長 遠藤正紀
文化スポーツ課長 沢口朝彦 主任主査 長嶺敏彦
学校教育指導担当課長 千田幸範
- 5 調査事件
高橋委員長 今日の結果を踏まえて、11月22日に秋田県の由利本荘市、横手市を視察した結果を踏まえて、2月24日までに報告書を提出願います。
出席委員の確認をします。定足数に達しておりますので本委員会は成立します。
それでは、平成28年開催の国民体育大会（サッカー競技）について説明お願いいたします。

I 平成28年開催の国民体育大会（サッカー競技）について

（10時00分～10時51分）

（教育委員会 教育部長 遠藤正紀 文化スポーツ課長 沢口朝彦 主任主査 長嶺敏彦）

遠藤部長 11月29日、30日に日本サッカー協会による正規視察が行われた。関係する4市村、盛岡市、花巻市、遠野市、滝沢村の視察結果が岩手県に通知されたことから、今後の対応計画も含めて説明いたします。

沢口課長 日本体育協会は日本サッカー教会と岩手県の準備委員会から視察結果に関する報告が挙げられて、その両者の結果を基に国体開催決定の手続きに入ることとなる。

本村の競技会場までの交通アクセス、宿泊施設の対策、競技会場の概要等についてですが、現状は固定席が1,800席、駐車場が500台、芝生部分の大きさが105m×70m、ピッチサイズは105m×68mとなっています。

滝沢村への指摘事項は、ピッチが平坦ではなく、芝生の生育状態も悪いため、全面的な張替を含む整備が必要である。張替にあたっては、ガイドラインに沿って芝生面の余白を十分に設けること。既存の観客スタンドの最後部をかさ上げし、仮設で競技運営本部を配置することが可能。あるいはバックスタンド側に競技運営本部を設置することも可能。この配置決定にあたっては、一般来場者と選手、関係者の導線をよく検証した上で判断すること。スタンド下の部屋、器具庫等を諸室として活用していただきたい。隣接する体育館を活用すること。例えば、フロアにチーム控室を配置し、既存のシャワーを使用することも可能である。審判員控室及びシャワーについては、隣接する野球場を活用するか、仮設対応が必要である。となっています。

また全体的な講評としましては、大会本部機能（JFA本部・岩手県サッカー協会本部）については、同一の1か所に設置する必要がある。同様に、審判宿舎につ

いても会場及び大会本部との位置関係も含めて、十分に検討すること。ゴールについては、原則として固定式のものを設置すること。既存の得点板、時計のない会場については必ず設置すること。旗の掲揚ポールについては、既設のものが無い会場については、ネットへの張り付け等を含めた仮設にて対応すること。なお、2面隣接している会場については、両ピッチ兼用の掲揚ポールが設置されている場合には、1組で十分である。となっています。

また、岩手県の準備委員会に提出している計画書については、平成25年に天然芝の張替改修実施設計に160万円、平成26年度に天然芝の張替改修整備1億2,714万8千円、平成27年度には得点板、時計、ペイント式ライン引き購入に120万8千円、平成28年度には国体開催時の仮設施設の設置等で1,000万円となり約1億4,000万円の予算となります。財源として、スポーツ振興くじ助成3,000万円を見込んでいます。

-
- 高橋委員長 芝の張替えですが、陸上競技場のフィールドの部分以外は考えられないか。また、サッカーに力を入れるのであれば2面取れるくらいの整備は考えていないか。滝沢村には天然芝の環境がない。先日の調査で行った西目カントリーパークは2面取れていて整備もきちっとしている。利用率も高い。青少年の健全育成に非常に良い環境だと思った。その辺のことも含めて抜本的な整備が必要だと思うがいかがか。
- 遠藤部長 天然芝は確かに良いし2面取れるのであれば非常に良い。しかし現時点ではそこまで考えていない。サッカー競技については岩清水選手のこともあり、青少年の活動の中で、或いは各学校の活動の中でも親交を図っていききたい。
- 高橋副委員長 総合公園の遊歩道について、所有者が売ってくれないということで一度諦めているが、状況が変わってきているので、再度土地を購入するなど計画はないか。駐車場も手狭であるし、抜本的な整備計画は考えていないか。
- 遠藤部長 今あるものの改修だけを考えていたので、財政的な部分もふまえて調査したい。
- 山谷委員 ゴールが固定式ということは、フィールド使用が制限されないか。
- 沢口課長 この内容は、差込式という固定の意味であり、永久固定の意味ではないのでご理解願いたい。今のゴールはとても重いので、軽いゴールにしたいと考えている。
- 高橋副委員長 本村には宿泊施設が無いが、体育施設は結構ある。色々な競技の合宿に使うプランはないのか。例えば野球でもバスで会場に来ている。地元への恩恵が少ない。
- 沢口課長 宿泊については、青少年交流の家とか新たな活用方法を考えなければならない。総合公園については都市公園という側面もあり国土交通省サイドの認可が必要である。
- 川原委員 総事業費1億4,000万円弱に対し補助が3,000万円だが、もっと見込めないものか。岩手県の事業でもあるから、岩手県の補助を要請できないか。もう一点は、村民運動を盛り上げていかなければならないが、どのように考えているか。
- 遠藤部長 県には機会を捉えて要望していきたいと考えている。村民運動については、1順目国体の時に花いっぱい運動とか村を挙げて運動したので今回も重要だと考えている。平成23年度に実行委員会が立ち上がるので村もそれについては盛り上げたい。終わった後も村に活かされるように努力したい。
- 相原委員 大会が終わった後に地域の人達が活用できるような施設にしないといけない。西目のサッカー場では、芝の整備に年間1,000万円ほどかかっている。そのことを考

慮すると天然芝だけではなく人工芝も候補になるとおもうが滝沢村では天然芝で行くことになっているのか。

沢口課長 滝沢村は、女子サッカーの決勝、準決勝、3位決定戦をお願いしたいと言われている。準決勝以上は天然芝で行うことになっているので、そのことも考慮すると天然芝でと考えている。また村でぜひ決勝を行いたいと考えている。

自治会で、これから行われる事業の中に国体の女子サッカーがあると話した。その際に、複合施設の土地を少し多く購入して、サッカー場も含めたきちっとした施設を作ったらどうかという提案があった。

高橋委員長 由利本荘市エリアのサッカーのレベルはかなり高い。地域の青少年の育成に非常に貢献している施設である。そういう将来を見据えた施設を整備することを考えて欲しい。

西村委員 住民の意識が高揚するような内容が必要である。昨年の新成人議会でチャグチャグ馬コの話が出たが、関係者や馬が通る地域には一大イベントかもしれないが、一部の地域だけで盛り上がっている。あまり滝沢村のイベントという意識がないと言っていたことを思い出す。この国体というイベントもあらゆる地域の住民を巻き込んだイベントにしないといけないと思う。

遠藤部長 前回の国体のようには行かないと思っている。国体のお陰でインフラ整備も出来た。意識の多様化もあり、イベントが住民に浸透するような取り組みが必要と考えている。

山本委員 陸上競技場の芝を替えると色々制約が出てくる。支障が出てくる分野はどのように整理するのか。

沢口課長 国体開催まで、芝の状態を含めて施設を維持しなければならない。使用回数を減らすことも出てくる。国体を含めた3年間はそうなると思う。

山本委員 小学校や中学校の陸上記録会などフィールド競技もある。利用して差し支えないものか。

沢口課長 利用の頻度の問題だと考える。毎日使えば荒れるので、使用制限は出てくるが、陸上記録会が出来ないということではないと考える。現在1種の公認も取れていない状態だが、来年4種の公認を取りたいと考えている。

高橋委員長 山形国体に伺った時は、地域住民の応援がすごかった。行った人達はみな感激していた。滝沢の人々の暖かさを享受出来るような仕組みを早めに確立して欲しい。

相原委員 芝についてだが、激しいスポーツに強い芝があるようだ。種類があるようなので研究して欲しい。

沢口課長 みたけの県営球技場で芝を張り替えたようだが青々としていた。参考にしたい。

相原委員 宿泊について民泊も研究して欲しい。食事に関しては衛生面の問題もあるが、合同配食とか地域が盛り上がる方法も検討してはどうか。

川原委員 平成26年年度に芝の張替を行うとしている。メンテナンスをどうするとか詳細の部分は詰めているのか。

沢口課長 まだですが、国体の1年前にはプレ大会が開催される。その意味で26年度の張替としているが、変更はありうる。

川原委員 先ほどの民泊の話だが、小岩井にも青年の館がある。グリーンツーリズムなどで使っているようだ。探せば結構あるのでそこも検討してみてもどうか。会場までの輸送体制も大切だ。

高橋 芝の張替はどうするのか。業者に頼むのか、指定管理に頼むのか。

副委員長

沢口課長

指定管理の中で管理料を増額して管理してもらう形となる。

暫時休憩【10時51分】

山谷委員退席【10時52分】

再開【10時55分】

II 学力向上対策について（10時55分～11時56分）

（説明員 教育部長 遠藤正紀 学校教育指導担当課長 千田幸範）

高橋委員長

先般、富山県、福井県を視察し、報告書を提出しているがさらに全国1位の秋田県横手市を視察したので、今日の会議も含めて報告書を提出願いたい。

この3県に共通することとして、教員は学校の仕事に集中できる土壌がある、つまり家庭がしっかりしている。その最大の理由は、3世代家族、同居世帯が多いということだ。滝沢村は核家族が多い。地域として、学校として、教育委員会として、家庭として子どもをどう育てていくか真剣に考えていかなければならない。

遠藤部長

本村の教育は全国水準を維持しているが、視察された3県の取り組みは素晴らしいと思う。家庭地域が一体となったものを目指したい。小中連携の取り組みの中で、小一プロブレムや中一ギャップの解消に向けて重点的に取り組んでいきたい。

相原委員

村内の先生方の交流として、他校の視察などは何回ぐらい行われるのか。

遠藤部長

学校公開は年に2回開催している。緊急指定校については他県の学校を視察している。

相原委員

横手市では地域の方が自分の地域の学校を自由に見学することが出来る取り組みをしているが滝沢村ではどうか。

遠藤部長

当村では学校評議員制度があり評議員会を開催しているが、将来的に進化していけばコミュニティスクールになるのかなと思う。本県では岩泉町で行われている。しかし、教員の人事権や教育課程の編成にまで踏み込むことが出来るのかという問題もある。

相原委員

評議員をやったことがあるが、ほとんど形骸化している。年2回の会議だけではなく、いつも話し合えるような、意見を取り入れられるような仕組みを作ってはどうか。

高橋委員長

我々の地区も育成会とPTA連絡協議会と評議員で年2回話し合っている。評議員は年配の方が多く「立派に子どもを育て上げた大先輩」であることを思い出す。その評議員が評議員会ではイエスしか言えない雰囲気がある。会議の在り方について教育委員会では考えて欲しい。

川原委員

富山県や福井県敦賀市で聞いた言葉の中で、「特別なことは何もしていません」というのが心に残っている。敦賀市では徹底した歴史学習の取り組みが行われていた。滝沢村で副読本を配布しているのは4年生のようだが、もっと歴史学習を早いうちから始めたほうがいいと感じた。姥屋敷のように地域を挙げて学校を守る運動をしているところがある。全員が評議員だという形で、地域の殿堂という位置づけがされている。学校図書館を充実させて、地域のみんなが集まれるようなモデル校として指定してやってみてはどうか。

千田課長

家庭学習の時間について、小学校1年生で30分、6年生で80分を目標としている。また中学校では120分位を目標に取り組んでいる。特に中学校1年生は、生活サイクルに乗れない子どもたちがいるので、小中連携のジョイントアップスク

ール事業を立ち上げる予定だ。

高橋

副委員長

調査の結果としては岩手県の方が学習時間が長い結果が出ていたはずだ。富山県、福井県、秋田県の取り組みの中で、学校の中での1時間1時間の学びの集中力が違うのではないかということに印象を受けた。家庭学習をやったから伸びているのではなく、教員が子どもたちの授業に専念できる環境が整っている。そして教員のスキルや指導技術の向上に市町村教育委員会や県教育委員会が取り組んでいると感じた。岩手県と3県の教員との資質はそれほど変わらないと思う。学力とは何かという問題について議論していないのではないかと思う。人それぞれ考え方や価値観が違うので、その違いを話し合う場が必要ではないか。先生や親たちは今のことに関心があるが、おじいさん、おばあさんは長い目で見た価値を持っているし知っている。それを共有する場を作ってはどうか。

遠藤部長

現在の学力テストが抽出方法を取っているということで、学力は点数だけかと、教科も限られているのに本当に計れるのかと賛否両論ある。一方では、一つの結果として現れているという意見もある。岩手県は国から示された標本で調査をしているが、時系列での比較が難しい。そのため岩手県独自の学習定着度調査というテストも行っていて、学力テストを補完しているし、学力テストも教科を増やしてはどうかという意見もある。

千田課長

学力については生きる力、知徳体の3つを掲げている。自ら課題を見つけ、主体的に物事を判断し、よりよく課題を解決しようとする資質や能力を身につけさせる努力をしている。

山本委員

秋田県横手市の報告書の中で家庭学習と早寝、早起き、朝ごはんがキーワードとなっている。生活リズムの中で朝ごはんを食べてくる子どもは増えているのか減っているのか、滝沢村の現状はどうか。

千田課長

小学校は1学級40名ほどだが、1週間朝ごはんを食べない子どもはいない。しかし、あまり食べないという子どもは40名に1人くらいいる。中学校に進んだ段階で、食べない子どもは5%くらいになる。統計的には全国と変わらない。

西村委員

共通して感じたことは、特別な学力向上対策をしていないのに学力が上なのはなぜかということ。それは、やろうという意識の高揚を図っていることだと感じた。朝ごはんをみんなで一緒に食べるとか、当たり前前の素朴なルールを守らせている。それを意識してやっている。

また学校に対する関心を高める施策を講じている。子ども、父兄、地域の方々がみんなで登校する日を設けている。その日は授業参観であったり、公開講座であったり、学校経営の説明会があったりする。滝沢村はどうか。

千田課長

4月5月のPTA総会の他に、運動会、発表会、文化祭、地区公開講座、授業参観などを行っている。また学校の様子については広報という形でお知らせしている。アンケートについては保護者だけに行っている。地域の方の声を如何に吸い上げるかについては今後の課題と考えている。

高橋委員長

知徳体のうち知、いわゆる学力については特に重要だ。義務教育では共通化、協働化を学ばせるべきである。社会に出て社会人として過ごせるためには人間としてのコミュニケーションをとらなければならない。そういう部分を教育していかなければ教育とはいえないと感じる。

特にも子どもの10か条は非常に分かりやすいと感じた。これらを参考に滝沢村でも頑張っていたきたい。

6 その他

高橋委員長

成人議会の質問通告は4つなので割り振りをします。

【委員で日程調整】

プロレスで村を盛り上げたいについては高橋委員長、村民歌については高橋副委員長、芸術文化の振興については川原委員、スポーツ交流については高橋委員長でお願いしたい。

終了【11時56分】